

専大スポーツ

No. 307

大会結果、予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からログイン)でご確認ください
専大スポーツweb (http://sensupo.web.fc2.com/) でも大会結果を配信しています

卓球・秋季関東学生リーグ戦

女子 13年ぶりの優勝

原が殊勲賞を受賞



▲ チームをけん引した原は殊勲賞を受賞

9月5日から13日まで、代々木第二体育館ほストリート勝ちで試合を決定した。6戦目で早大にリーグ戦が行われ、女子が13年ぶりの優勝。最終戦で制覇を果たした。

初戦の東京富士大戦はリズムに乗れず1-4で勝ち点を取られてしまった。しかし、2戦目の早大にフルセットの末、4-3で勝利し、ここから勢いに乗る。順調に白星を重ね、5戦目には春季リーグ戦を制した中央大と互角の戦いを繰り広げ、最後は天野友未主将

(文4・日南学園高)がストリート勝ちで試合を決定した。6戦目で早大に敗れたものの、最終戦で淑徳大に勝利。5勝2敗で4校が並んだが、4校の対戦成績(勝率)の結果、専大の優勝が決まった。

個人では、原ちひろ(文3・青森山田高)が殊勲賞を受賞した。

今季で引退する天野は「最後まで優勝できるとは思っていなかった。初戦に負けてしまい、みんな落ち込んでいたが、試合後に監督と一緒にどこが悪いかを話し合っ

て、改善していった。今までは、田中健奨(商3・滝川第二高)が春季リーグ戦に続き、敢闘賞を受賞した。

(橋本 里恵・文2 写真も)

男子は、4勝3敗で4位となり、昨年の6位から順位を上げた。個人では、田中健奨(商3・滝川第二高)が春季リーグ戦に続き、敢闘賞を受賞した。

女子サーブル団体優勝

男子は2種目とも団体3位

フェンシング・関東学生選手権



▲ 優勝を決めた竹田

関東学生フェンシング選手権が9月26日から30日まで、駒沢公園屋内球技場で行われ、専大は女子サーブル団体が優勝を果たした。

決勝戦では春季リーグ戦準優勝の早大を相手に、中盤まで押されていたが、終盤に追い上げを見せ、44-44と同点に。次のポイントを取った方

が優勝というもつれにもつれた試合で、竹田悠里(経済3・米沢東高)が最後にポイントを取って、この白熱した戦いに終止符を打った。

竹田は「何をしようかと迷っていたが、思い切りいこうと思ひ、迷いを振り切った」とその時の心境を振り返り、「緊張したがチームの声援もあ

女子の関東大学テニスリーグ戦が9月7日から15日まで、有明テニスの森で行われた。2年連続で準優勝しており、今年こそ早大を破って優勝したいところだったが、結果は3位。全日本大学対抗王座決定試合(以下、王座)の出場権も逃した。

第3戦までは順調に勝ち星を挙げた専大。しかし第4戦で早大に3-4の僅差で敗れると、早大との最終戦も落としてしまう。最終成績は2位早大に一步及ばな

り、冷静になることができた。今はとにかくうれしい」と優勝の喜びを述べた。

全日本大学対抗選手権に向けて「今回のようにチーム一丸となって、優勝を狙っていききたい」と力強く語った。

また、男子はエペ、サーブル団体ともに3位に入るなど、今大会ではチームとしての活躍が目立った。

なかなかベスト16の壁を越えることができなかった。そんな中、鈴木が1年次生ながら、専大勢で唯一ベスト16入りした。

なお、同大会ではフェンシング部OBの活躍が目立った。男子エペで奥雄さん(平13法 警視庁)が2年ぶりに優勝した。

(青木 宏平・経営2 写真も)

テニス・関東大学リーグ戦

女子3位で「王座」出場逃す

男子は2部で優勝

女子の関東大学テニスリーグ戦が9月7日から15日まで、有明テニスの森で行われた。2年連続で準優勝しており、今年こそ早大を破って優勝したいところだったが、結果は3位。全日本大学対抗王座決定試合(以下、王座)の出場権も逃した。

第3戦までは順調に勝ち星を挙げた専大。しかし第4戦で早大に3-4の僅差で敗れると、早大との最終戦も落としてしまう。最終成績は2位早大に一步及ばな

り、冷静になることができた。今はとにかくうれしい」と優勝の喜びを述べた。

全日本大学対抗選手権に向けて「今回のようにチーム一丸となって、優勝を狙っていききたい」と力強く語った。

また、男子はエペ、サーブル団体ともに3位に入るなど、今大会ではチームとしての活躍が目立った。

なかなかベスト16の壁を越えることができなかった。そんな中、鈴木が1年次生ながら、専大勢で唯一ベスト16入りした。

なお、同大会ではフェンシング部OBの活躍が目立った。男子エペで奥雄さん(平13法 警視庁)が2年ぶりに優勝した。

(青木 宏平・経営2 写真も)



▲ 2部を制した男子メンバー

漕艇・日本カヌー

スプリント選手権

「K-4」2000m 2位

日本カヌースプリント選手権が、9月8日から12日まで、石川県小松市の木場潟漕艇場で開催された。漕艇部の土屋陽主将(経営4・東郷高・菊地純一(商4・安達高)・上中宙士(経営3・久美浜高)・三浦翔太(商2・安達高)組がカヌーでメダルを持ち帰ることができた。

三浦は「個人的には良かったです。専大は順位が決まる。専大は主力が安定した力を見せ、初日、2日目とも507のトータル10

12日まで、石川県小松市の木場潟漕艇場で開催された。漕艇部の土屋陽主将(経営4・東郷高・菊地純一(商4・安達高)・上中宙士(経営3・久美浜高)・三浦翔太(商2・安達高)組がカヌーでメダルを持ち帰ることができた。

三浦は「個人的には良かったです。専大は順位が決まる。専大は主力が安定した力を見せ、初日、2日目とも507のトータル10

3種目で入賞したK-4 (左から土屋、上中、菊地、三浦)



は大会を重ねるごとに、感覚をつかみ、調子が良くなってきた。来年はもう少し考えて調整し、万全の状態でも臨みたい」と今季を振り返った。

専大は3位となった。

ゴルフ・関東大学

秋季Aブロック対抗戦

3位で信夫杯出場権を獲得



▲ 信夫杯での活躍が期待される男子部員たち(写真提供=関東学生ゴルフ連盟)

9月13、14の両日、埼玉県のこだまゴルフクラブで、関東大学秋季Aブロック対抗戦が行われ、専大は3位となった。

信夫杯奪得日本大学対抗戦への切符を手にした。「今の力を精いっぱい出して優勝を目指す」と、白水主将は同大会への意気込みを語った。

(溝井 智大・文2)

学内ラックで無料配布中

専Sat-ion」第6号を発行

石巻専修大学体育会を訪問、スキー部・清水のインタビューも

体育会本部情宣局 大学に部員たちが足を(専大スポーツ編集 運び、同大の体育会を部)ではフリーペーパー第6号を発行した。

同誌は表紙デザインから記事執筆、編集まですべて部員たちが制作。08年3月に創刊し、取材。選手たちの前向は専大スポーツウエ年2回のペースで発刊 きな気持ちをお届けすプ、または学内ポスターを閲覧ください。

ほかに表紙を飾っ (吉崎 宇忠・商1)

同誌はキャンパス内のラックで無料配布中。詳しくは学内ポスターを閲覧ください。



同誌はキャンパス内のラックで無料配布中。詳しくは学内ポスターを閲覧ください。

たスキー部の清水亜久里(商2・新井高)のインタビューや漕艇部特集に加え、恒例のOB特集では陸上競技部間紅林さん(平20商)のインタビューを掲載している。

同誌はキャンパス内のラックで無料配布中。詳しくは学内ポスターを閲覧ください。